

平成15年度栃木県香港事務所5大ニュース

(平成16年4月1日、栃木県香港駐在員)

1. 日本食フェア「Japan tastes great」への出展協力

1 昨年、香港のプレミアムスーパー「great (グレート)」で開催され大好評のうちに幕を閉じた日本食フェア「Japan tastes great」が、再び6月20日から7月17日にかけて開催されました。

前回は26点の県産品が出展され、うち数点については香港のマスコミに取り上げられ、またフェア終了後に通常取引が開始されましたが、今回も県香港事務所の協力により15点の「メイド・イン・栃木」の商品が出展を果たしました。出展された商品の中では前回



に続いてマスコミに取り上げられた那須ハートランド(那須町)の和洋菓子のほか、ソワール洋菓子店(栃木市)の日本酒ゼリーなどが来場者の注目を集めていました。

輸出促進事業は現在、ジェトロ(日本貿易振興機構)が最も力を入れている事業です。今後は世界有数の日本食市場である香港を中心に、栃木県産品の一層の販路拡大に努めてゆきたいと考えています。

2. 「日本銘酒試飲会」、香港で開催

9月23日、県香港事務所が入居しているジェトロ香港センターで、「日本銘酒試飲会」が開催されました。この試飲会には天鷹酒造(湯津上村)をはじめとする全国12の蔵元から、30の銘酒が出品されました。

このイベントは昨年1月に訪港した天鷹酒造の尾崎宗範社長と県香港駐在員が意見交換したことがきっかけで開催されました。県香港事務所は試飲会当日、天鷹酒造のコーナーでアテンド業務を支援しました。

3. 「華東地区ハイテクベンチャー企業交流会」に出展

県香港事務所は12月21日・22日の2日間、中国・上海市で開催された「華東地区ハイテクベンチャー企業交流会」に出展し、本県の産業や投資環境を紹介しました。

成長著しい中国経済の中心である華東地域(上海市、江蘇省、浙江省)には、日本市場への参入や日本企業との提携を目指す優良企業が多数存在しています。一方、海外からの投資誘致や優秀な人材の取り込みは、日本経済や産業を再生させる方策として近年とくに注目されています。

そこで県香港事務所は17の日本の地方自治体とともにブース出展し、本県の投資環境や「とちぎ産業創造プラザ」のPRを行うとともに、香港駐在員が中国語でプレゼンテーションを行いました。その結果、本県への進出に意欲的な中国企業を発掘できたほか、本県と友好提携10周年を迎えた浙江省政府関係者と今後の経済交流の在り方について意見の一致をみるなどの成果を収めることができました。



4. 「中国華南栃木県企業人会」発足に尽力

2月14日、香港や中国・広東省に駐在している栃木県関係者によるネットワークづくりを目的とした、「中国華南栃木県企業人会」が発足しました。

本県の中国進出企業には中小企業が多いことから現地の日本人商工会などに加入していないことも多く、現地情報の入手が困難なケースが見受けられます。また現地法人に日本人社員を駐在させずに日本からの出張者だけで対応している企業には、在外公館の目も届きにくいという事情もあります。このことは先般のSARS禍において大きな問題となったことから、「進出企業の駐在員による連絡会のような組織を設置して欲しい」という要望が多く寄せられていました。そこで県香港事務所が、まず本県からの進出件数の多い香港と広東省において設立準備を進めていました。

広東省深圳市で開催された発足式には26名の本県関係者が出席しました。今後は会員の皆様のご意見を良く伺いながら、情報交換会や講師を招いての勉強会などを開催してゆきたいと考えています。またそれらの機会を通じて県に対する支援ニーズを把握するとともに、県内の関係情報の提供も行ってゆくつもりです。



なお県香港事務所では、来年度以降、同様の「…栃木県企業人会」を、中国華東地域（上海市、江蘇省、浙江省）及び遼寧省大連市においても立ち上げることを予定しています。

5. 「香港マスコミ招聘事業」に全面協力



栃木県と県内10市町村などで構成されている「日光・宇都宮地域国際観光推進協議会」は、外国人旅行者訪日促進戦略、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の一環として、その5大重点市場の1つである香港からマスコミ関係者を招聘し、2月18日から23日までの6日間、取材ツアーを実施しました。県香港事務所はこの事業の実施にあたって、香港のマスコミ各社に参加を呼びかけたほか、クートニコフ優子アシスタントが通訳として取材ツアーに同行しました。なおこの取材ツアーには、香港の有力紙「東方日報」、「蘋果日報」、「明報」から3人の記者が参加しました。

「冬でも楽しい！美味しい！“とちぎ”の魅力」をテーマとした今回の取材ツアーでは、湯西川温泉の「かまくら祭り」や奥日光の「スノーシュー」、「いちご狩り」などを実際に体験してもらいました。取材ツアーが終了してから1カ月ほどで、ほぼ1面を使った紹介記事が既に7回も掲載されたことでおおり、栃木の冬の魅力を存分にPRできたと思います。